

IV-6 子育て関係施設従事者の調査結果

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

区内の子育て関係施設の従事者に対してアンケートを行うことにより、子育てに関する悩みや不安感、相談方法や情報入手方法に関する実態、子育て支援サービスの認知度・利用意向、家庭・保護者との連携状況等を把握し、平成 21 年度「練馬区次世代育成支援対策行動計画（後期）」を策定するうえでの基礎資料とする。

(2) 調査内容

- ①調査対象者の状況について
- ②子育て支援に関する悩み、不安等について
- ③子育てに関する情報、相談の状況について
- ④子育て支援に関する提携、協力、虐待の状況について

(3) 調査仕様

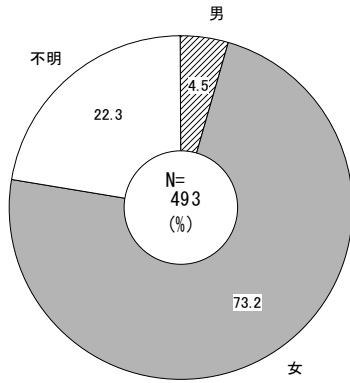
- ①調査地域 区全域
- ②調査対象 区内の子育て関係施設の従事者
- ③標本数 510 件
- ④抽出方法 施設の種別別に従業者数などを勘案し 48 施設抽出
- ⑤調査方法 施設を經由して配付、回収
- ⑥調査期間 平成 21 年 1 月 26 日～2 月 10 日

(4) 回収数・回収率

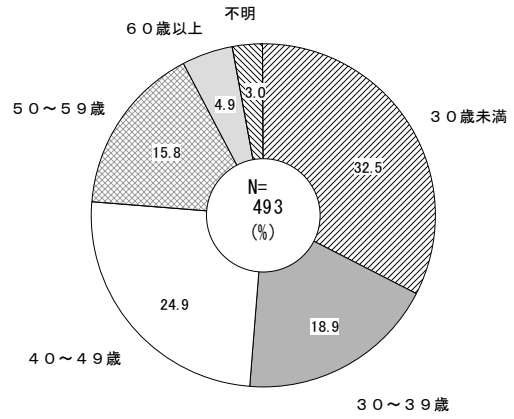
493 件 有効回答率＝96.7%

(5) 基本属性

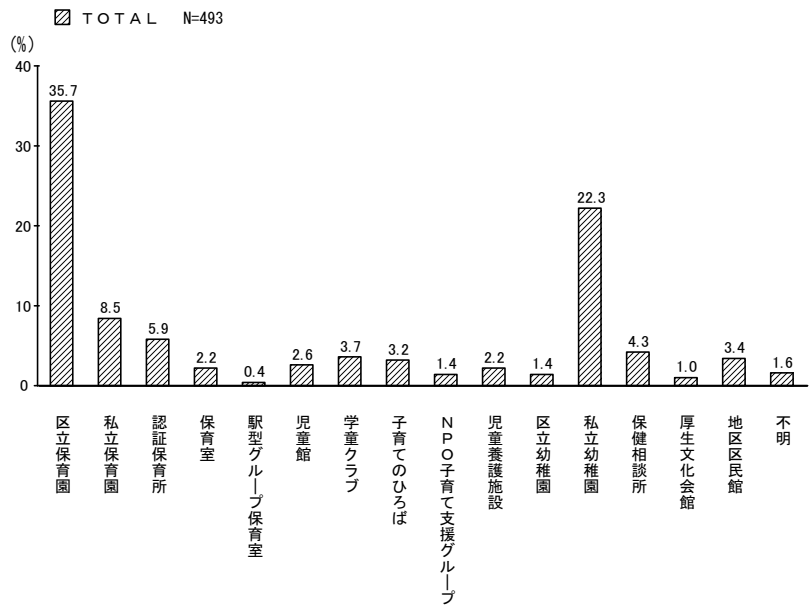
性別



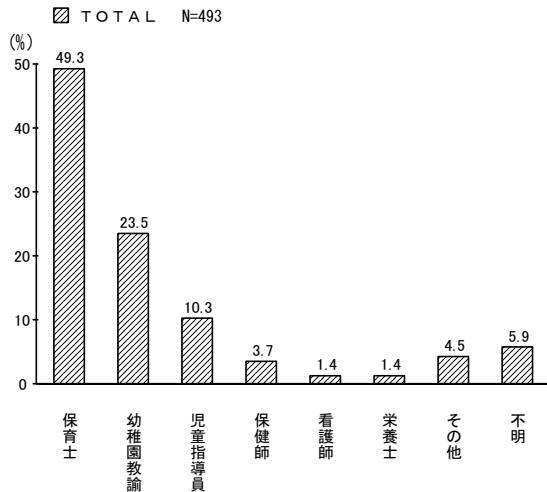
年齢

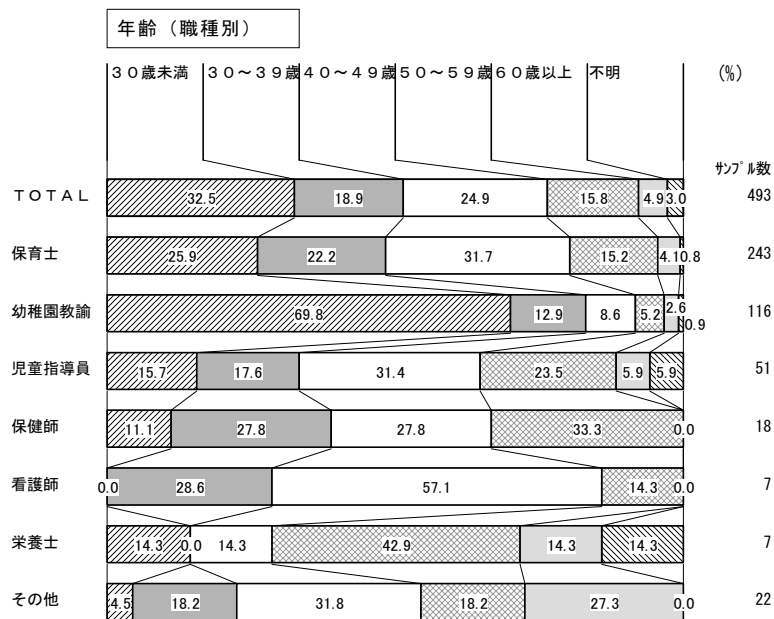


施設



職種





◆本報告書における調査結果の見方

- 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は合計及びNで示している。
- 回答率(%)については、小数点以下第2位を四捨五入し、少数第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- 回答には、単数回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の2種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合がある。
- 図表の間のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な間のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。

2. 調査結果の概要

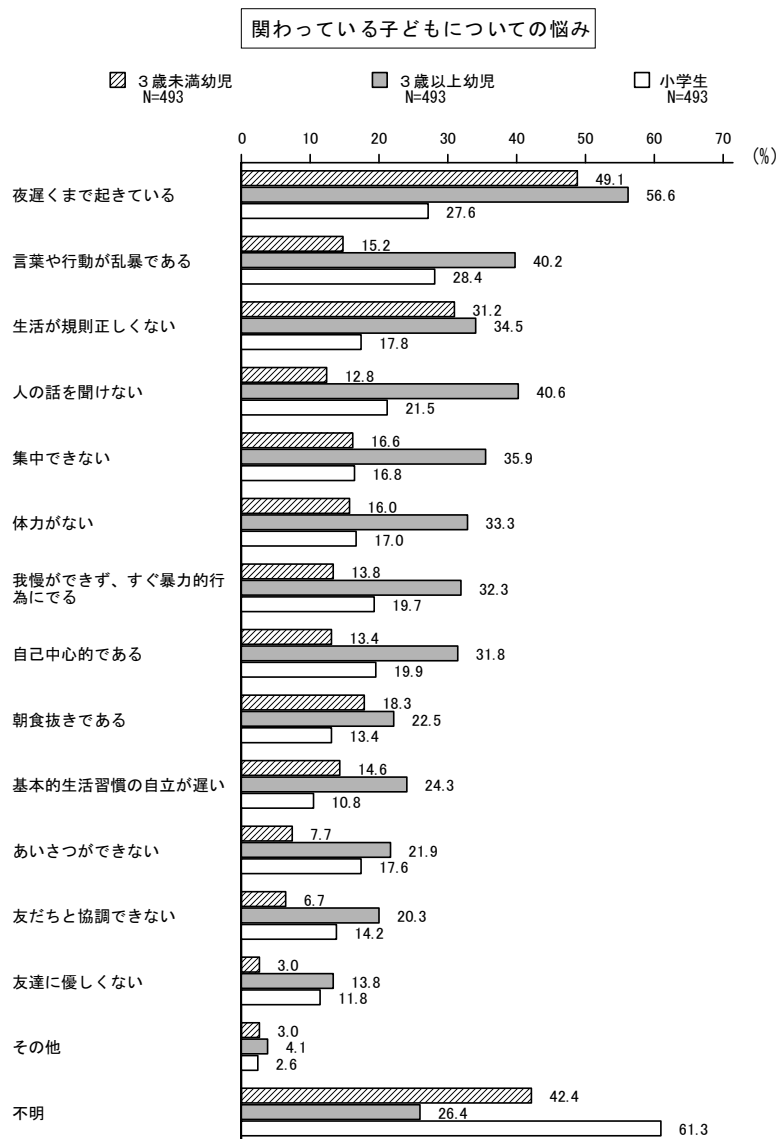
(1) 子育て支援に関する悩み、不安等について

問1 あなたが関わっている子どもに対して、「近頃こんな子どもが増えている」と悩んでいることはありますか。(1) 3歳未満幼児、(2) 3歳以上幼児、(3) 小学生、それぞれについてご記入ください。(複数回答)

それぞれの子育て関係施設で関わっている子どもに対する悩みについて、(1) 3歳未満幼児、(2) 3歳以上幼児、(3) 小学生、それぞれについて聞いたところ、『3歳未満幼児』については、「夜遅くまで起きている」が49.1%で最も多く、続いて「生活が規則正しくない」が31.2%となっている。

『3歳以上幼児』については、同じく「夜遅くまで起きている」が56.6%で最も多く、続いて「人の話を聞けない」が40.6%となっている。

さらに『小学生』については、「言葉や行動が乱暴である」が28.4%で最も多くなっており、続いて「夜遅くまで起きている」が27.6%となっている。

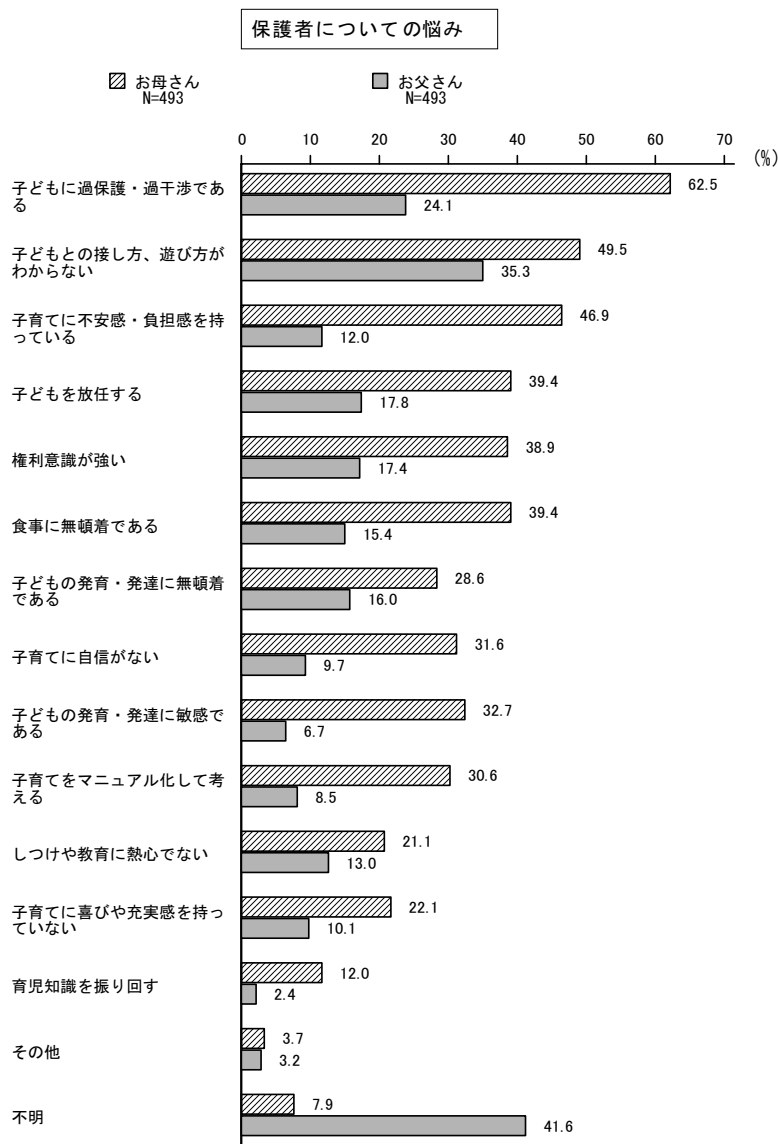


問2 あなたが関わっている子どもの保護者（お母さん、お父さん）に対して、「近頃こんなお母さん、お父さんが増えている」と悩んでいることはありますか。（1）お母さん、（2）お父さん、それぞれについてご記入ください。（複数回答）

それぞれの子育て関係施設で関わっている子どもの保護者（お母さん、お父さん）に対する悩みについて聞いたところ、『お母さん』については、「子どもに過保護・過干渉である」が62.5%、「子どもとの接し方、遊び方がわからない」が49.5%、「子育てに不安感・負担感を持っている」が46.9%となっている。

一方『お父さん』については、「子どもとの接し方、遊び方が分からない」が35.3%で最も多く、続いて「子どもに過保護・過干渉である」が24.1%、「子どもを放任する」が17.8%となっている。

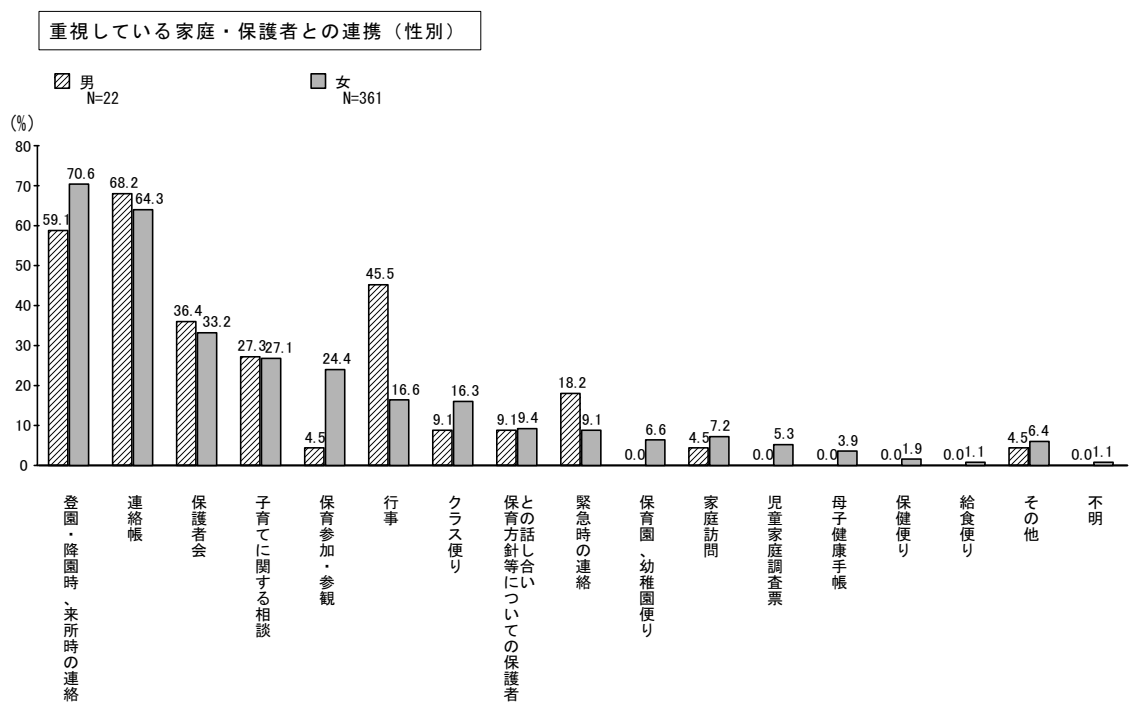
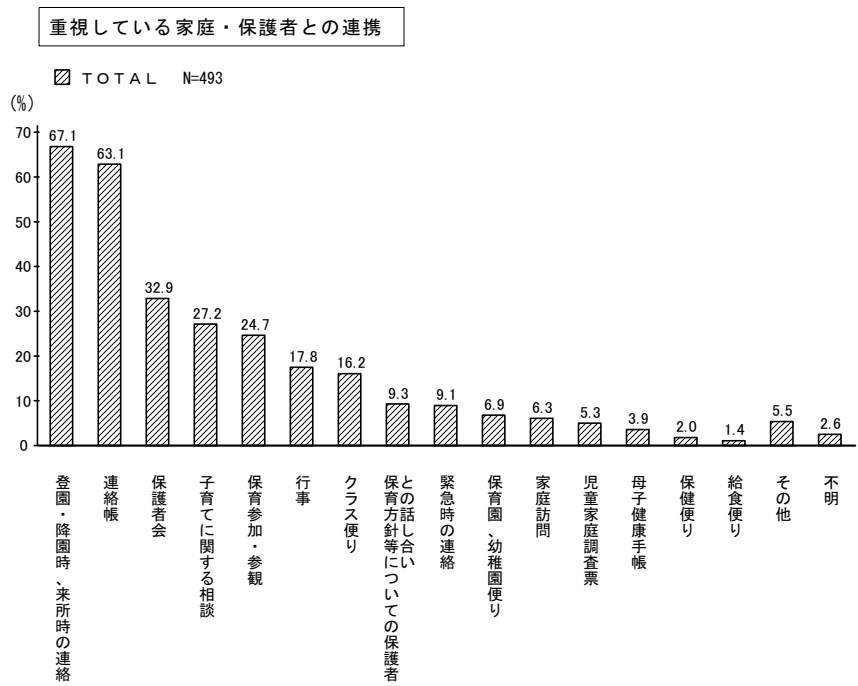
全体的に『お母さん』の方が多くの項目を選択していた。



問3 あなたは、家庭・保護者との連携に関して、どのようなことを重視していますか。（3つ）

家庭・保護者との連携で重視していることについて聞いたところ、「登園・降園時、来所時の連絡」が67.1%で最も多く、続いて「連絡帳」が63.1%、「保護者会」が32.9%などとなっている。

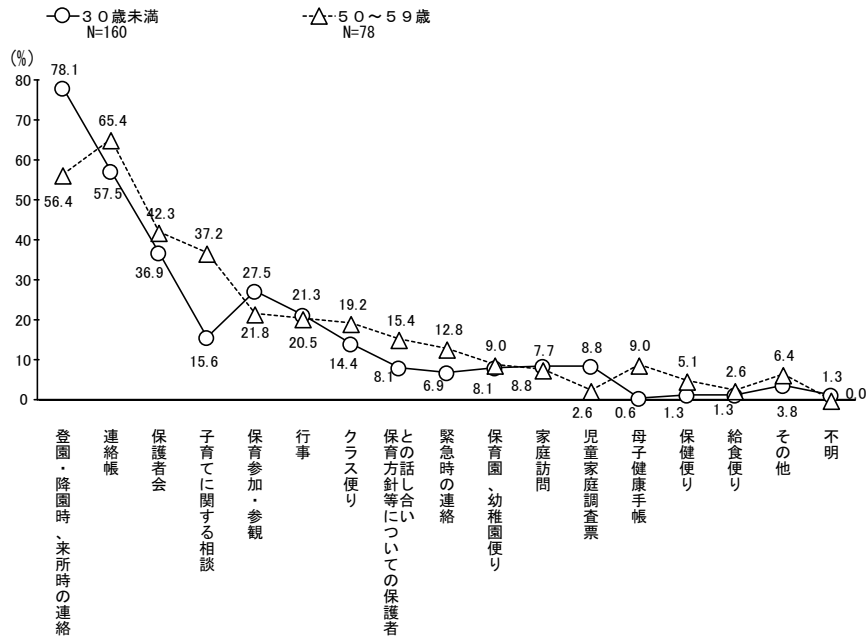
施設従事者の性別（以下「性別」）で見ると、女性は「登園・降園時、来所時の連絡」が最も多く、続いて「連絡帳」となっているが、男性は「連絡帳」が最も多くなっている。



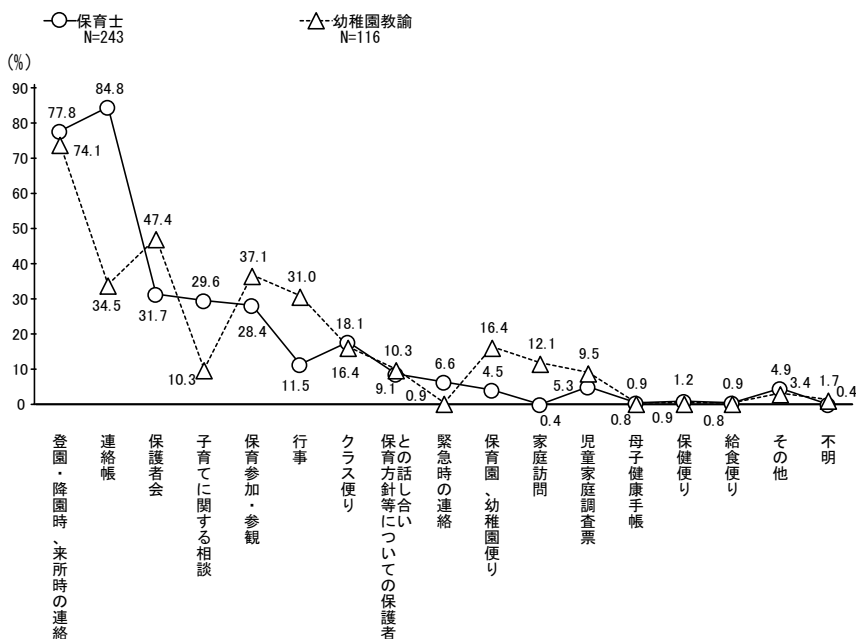
次に若い従事者である「30歳未満」とベテラン年代の従事者である「50～59歳」とで比較すると（以下「年齢比較」）、30歳未満では「登園・降園時、来所時の連絡」が最も多く、続いて「連絡帳」となっているが、50～59歳では「連絡帳」が最も多く、続いて「登園・降園時、来所時の連絡」となっている。

さらに「保育士」と「幼稚園教諭」とで比較したところ（以下「職種比較」）、保育士は「連絡帳」が最も多く、続いて「登園・降園時、来所時の連絡」となっているが、幼稚園教諭については「登園・降園時、来所時の連絡」が最も多く、続いて「保護者会」となっている。

重視している家庭・保護者との連携（年齢比較）



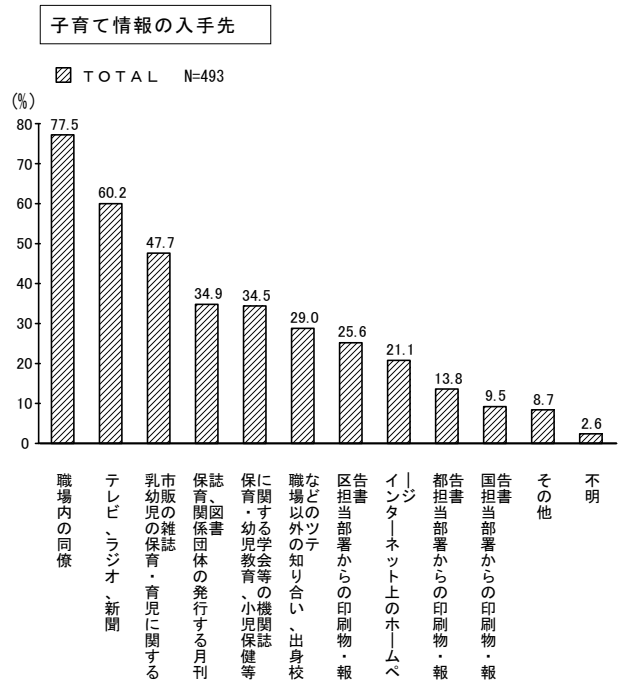
重視している家庭・保護者との連携（職種比較）



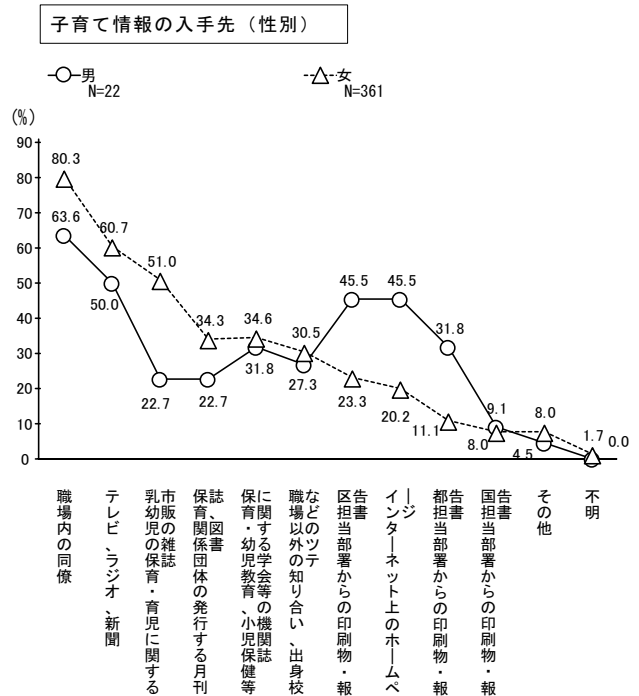
(2) 子育てに関する情報、相談等について

問4 あなたは、子育てに関する情報を、どのようにして入手されていますか。(複数回答)

子育て情報の入手方法について聞いたところ、「職場内の同僚」が77.5%で最も多く、続いて「テレビ、ラジオ、新聞」が60.2%、「乳幼児の保育・育児に関する市販の雑誌」が47.7%となっている。

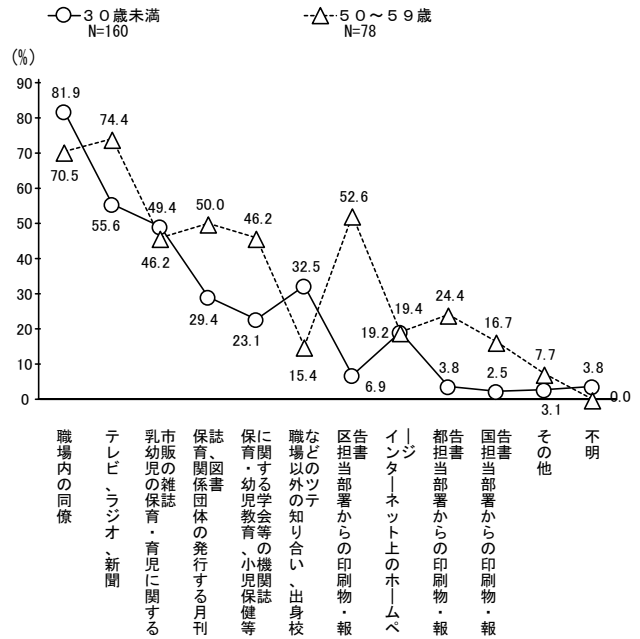


性別で見ると、男女共に「職場内の同僚」が最も多く、続いて「テレビ、ラジオ、新聞」となっているが、男性は「区担当部署からの印刷物・報告書」「インターネット上のホームページ」「都担当部署からの印刷物・報告書」も多くなっている。



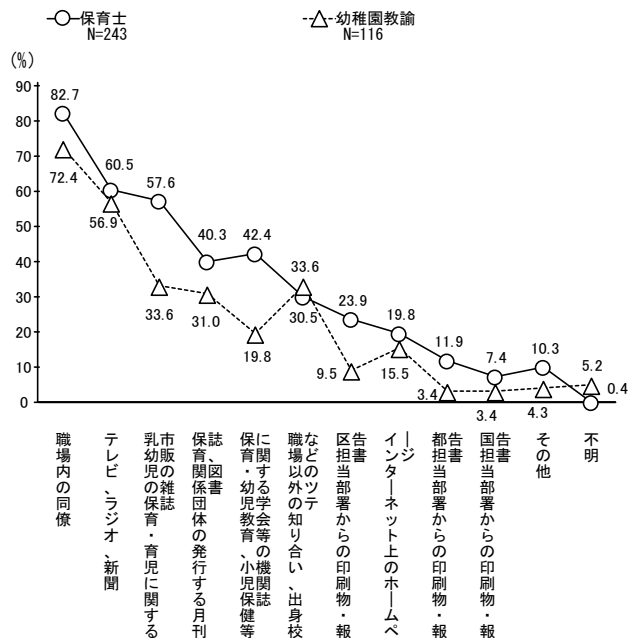
年齢比較を行うと、30歳未満については「職場内の同僚」が最も多く、続いて「テレビ、ラジオ、新聞」となっているが、50～59歳については「テレビ、ラジオ、新聞」が最も多く、続いて「職場内の同僚」「区担当部署からの印刷物・報告書」となっている。

子育て情報の入手先（年齢比較）



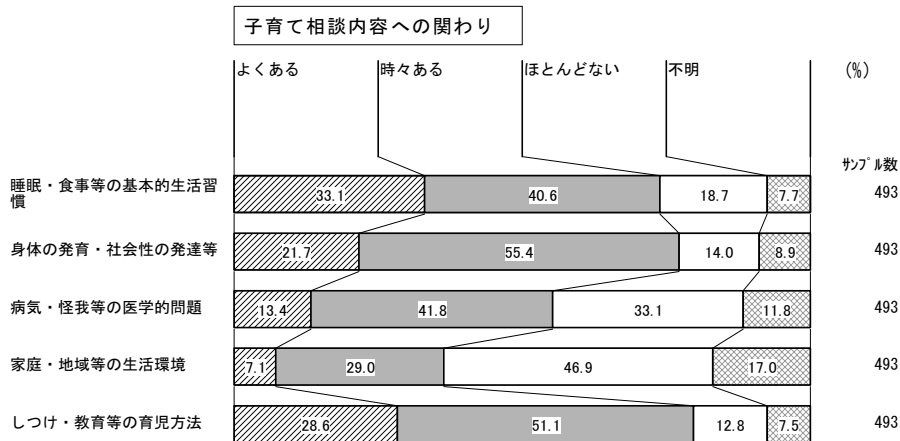
職種比較を行うと、保育士、幼稚園教諭のいずれも「職場内の同僚」が最も多く、続いて「テレビ、ラジオ、新聞」となっている。

子育て情報の入手先（職種比較）



問5 あなたは、次のような子育てについての相談の内容にどの程度関わっていますか。(なお、ここでいう相談とは、入所の問い合わせなどは含まず、育児・子育てに関する相談とします。)

子育てについての様々な相談内容とその頻度について聞いたところ、「しつけ・教育等の育児方法」や「身体の発達・社会性の発達等」「睡眠・食事等の基本的な生活習慣」について「よくある」「時々ある」の割合が大きくなっている。

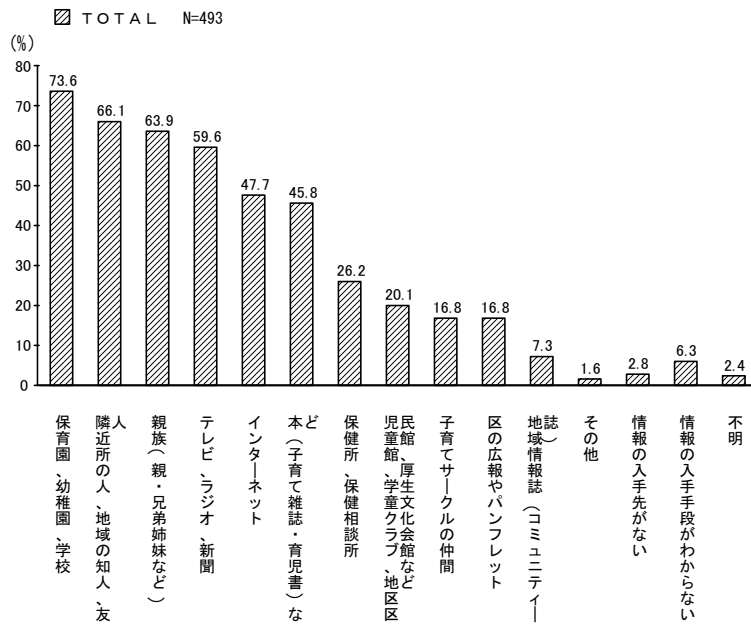


問6 あなたが関わっている子どもの家庭では、子育てに関する情報を、どのようにして入手されていると思いますか。(複数回答)

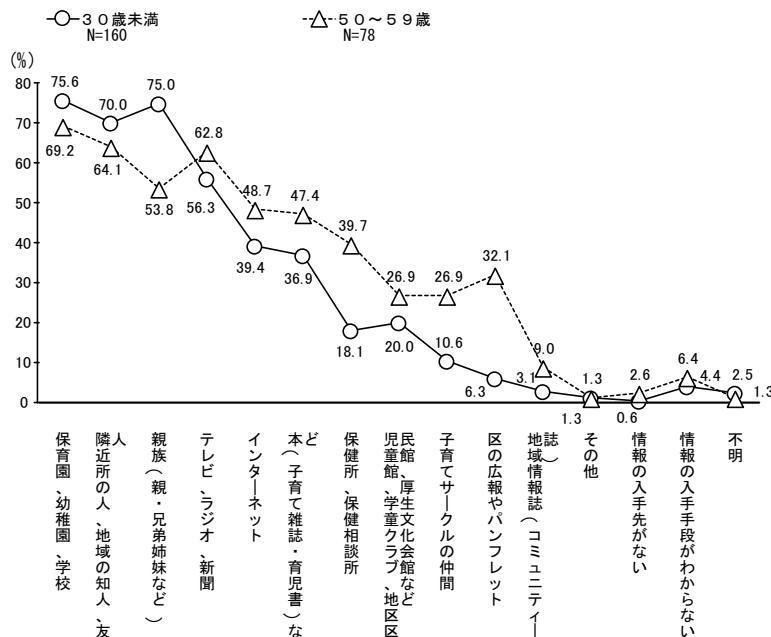
それぞれの子育て関係施設で関わっている子どもの家庭で、想定される子育て情報の入手方法についての聞いたところ、「保育園、幼稚園、学校」が73.6%で最も多く、続いて「隣近所の人、地域の知人、友人」が66.1%となっている。

年齢比較を行うと、いずれも「保育園、幼稚園、学校」が最も多く、30歳未満では「親族・親・兄弟姉妹など」、50～59歳では「隣近所の人、地域の知人、友人」が続いている。

関わっている子どもの家庭での子育て情報入手先予想



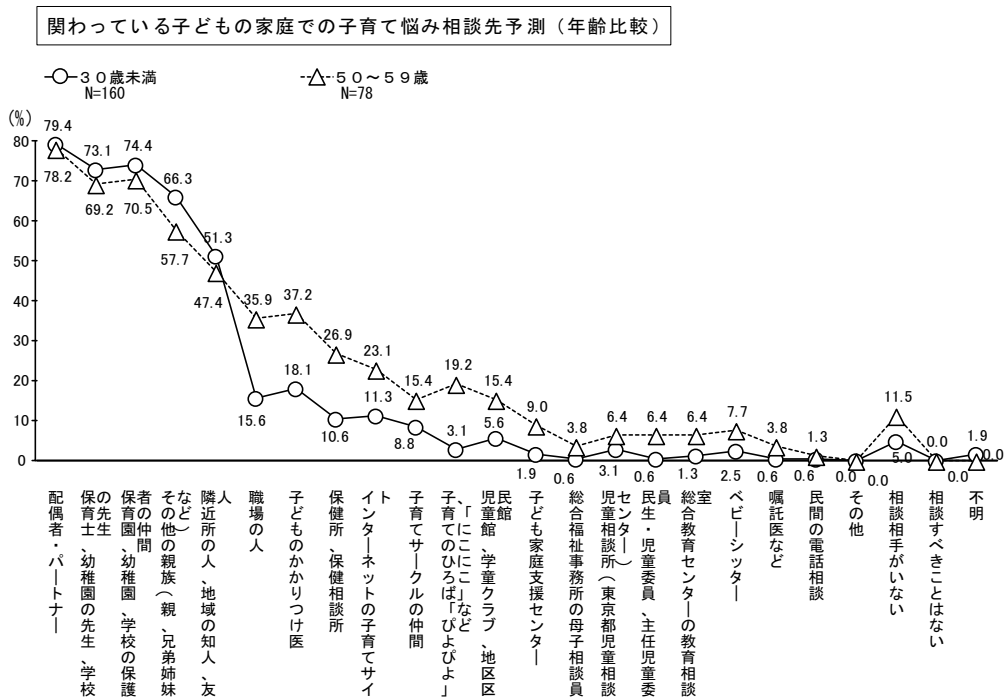
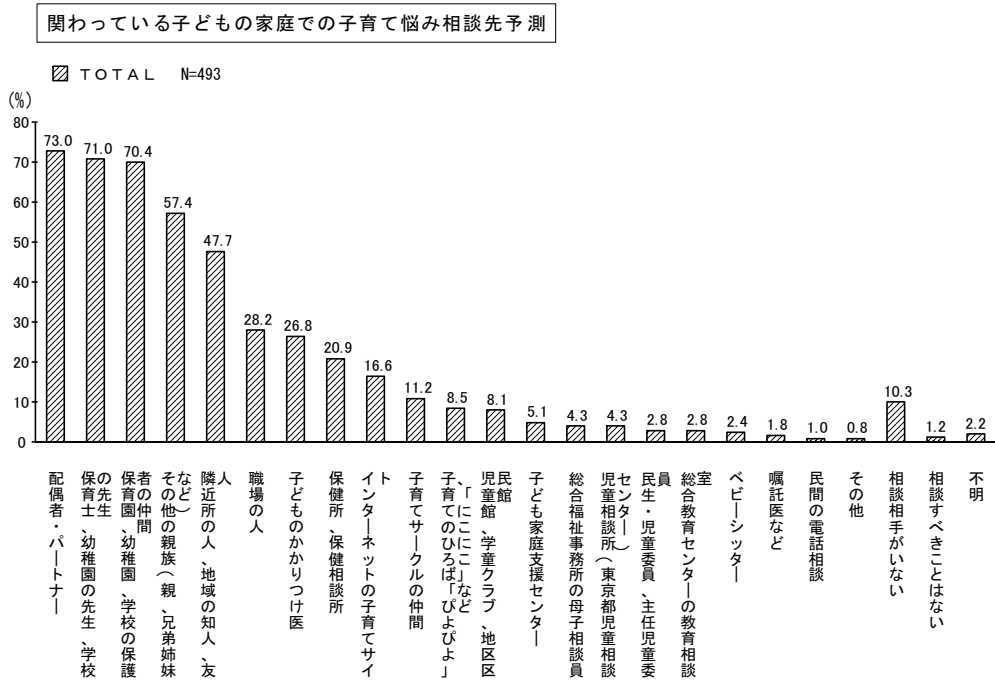
関わっている子どもの家庭での子育て情報入手先予想(年齢比較)



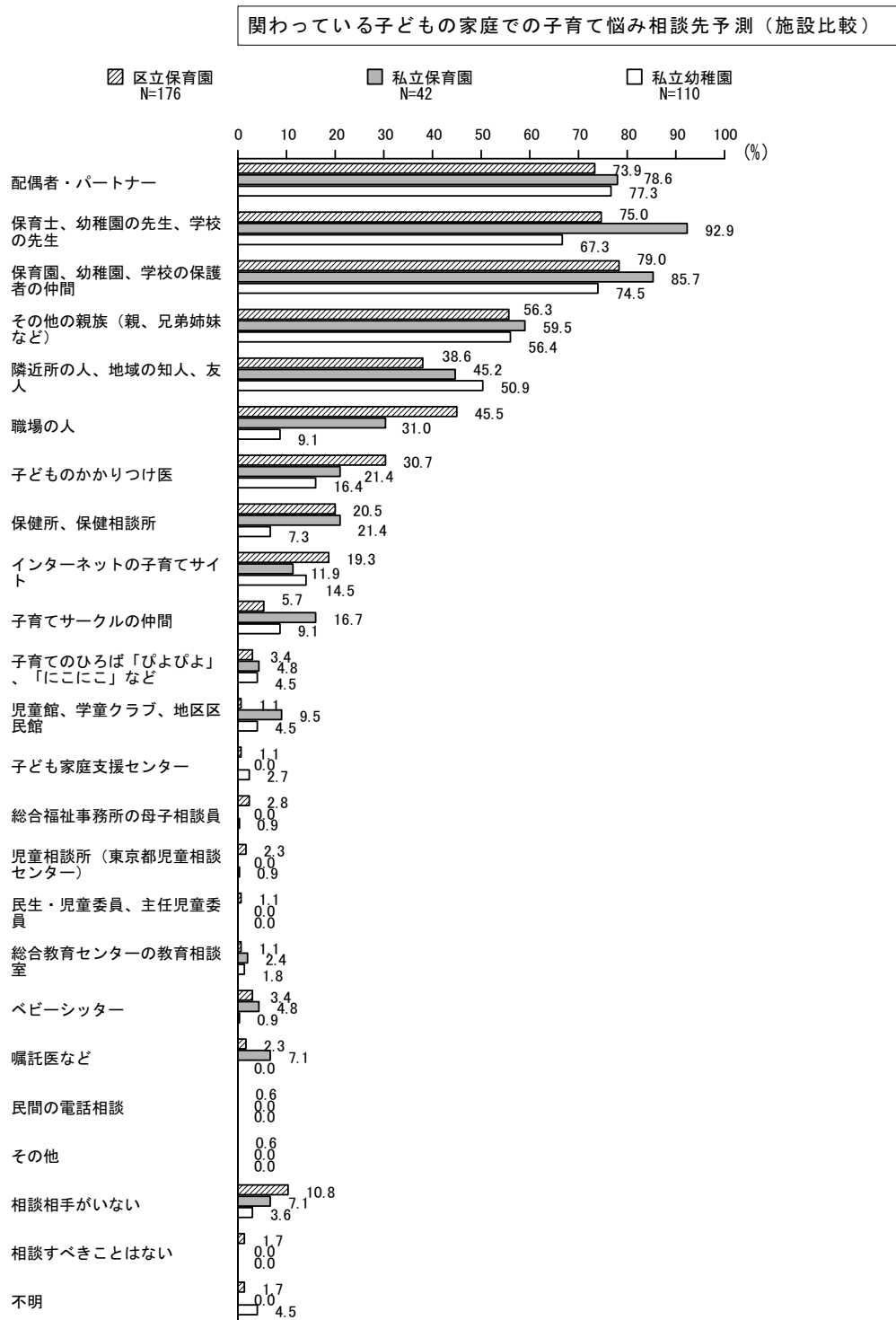
問7 あなたが関わっている子どもの家庭では、子育てに関する悩みや不安などをどこに相談されていると思いますか。(複数回答)

それぞれの子育て関係施設で関わっている子どもの家庭で、想定される子育ての悩みや不安等の相談先について聞いたところ、「配偶者・パートナー」が73.0%で最も多く、続いて「保育士、幼稚園の先生・学校の先生」が71.0%、「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」が70.4%となっている。

年齢比較を行うと、いずれも「配偶者・パートナー」「保育士、幼稚園の先生・学校の先生」そして「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」が多くなっている。



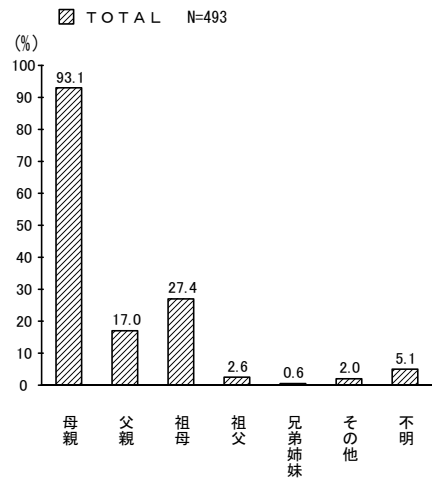
施設比較を行うと、いずれの施設従事者も「配偶者・パートナー」「保育士、幼稚園の先生・学校の先生」そして「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」が多くなっている。



問8 あなたが子育てについての相談を受ける相手は、相談の対象となる子どもからみて、どのような関係の人ですか。(複数回答)

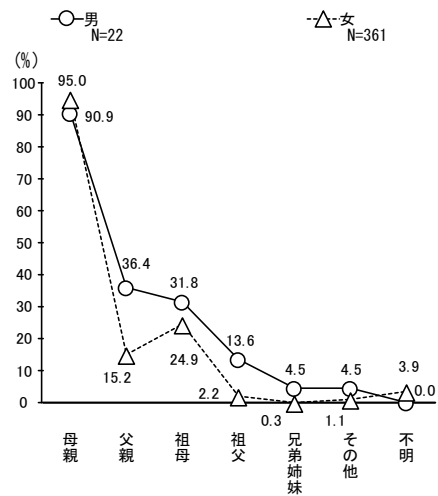
子育てについて相談を受ける相手について聞いたところ、「母親」が 93.1%であった。

子育て相談主



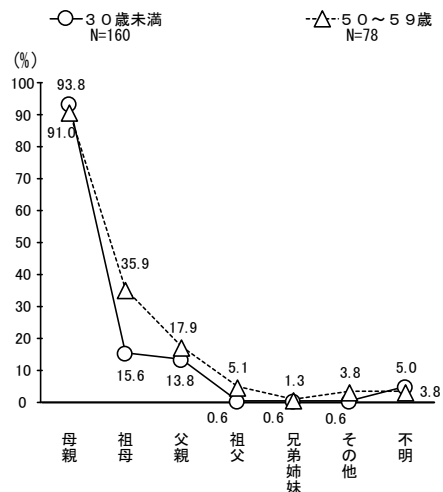
性別で見ると、男女共に「母親」が最も多く、男性については「父親」もやや多くなっている。

子育て相談主 (性別)



年代比較を行うと、いずれの年代も「母親」が最も多く、50～59歳については「祖母」も多くなっている。

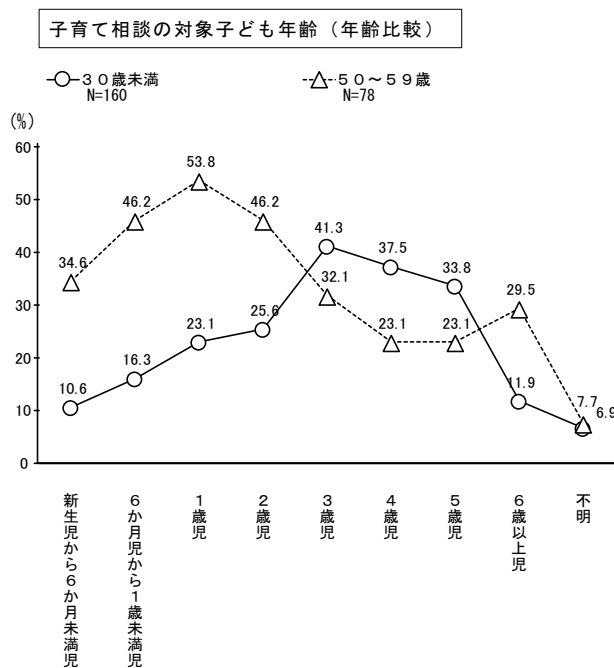
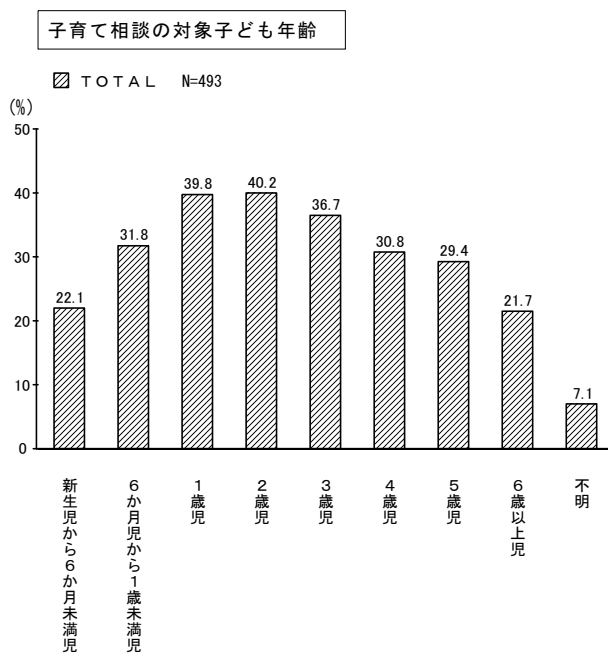
子育て相談主 (年齢比較)



問9 子育てについての相談の対象となる子どもの年齢で、多いのはどれですか。(複数回答)

子育てについての相談の対象となる子どもの年齢を聞いたところ、「2歳児」が40.2%で最も多く、続いて「1歳児」が39.8%、「3歳児」が36.7%となっている。

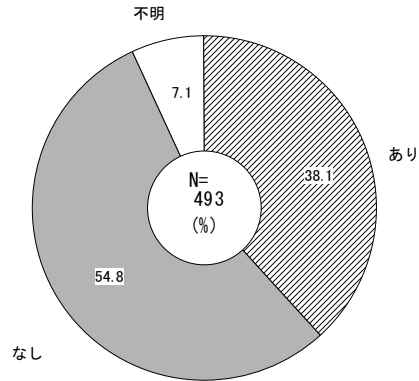
年齢比較をすると、「新生児から6か月未満児」から「2歳児」までは50～59歳、「3歳児」から「5歳児」は30歳未満が多くなっている。



問10 子育てについての相談を進めていく上で、現在直面している問題がありますか。

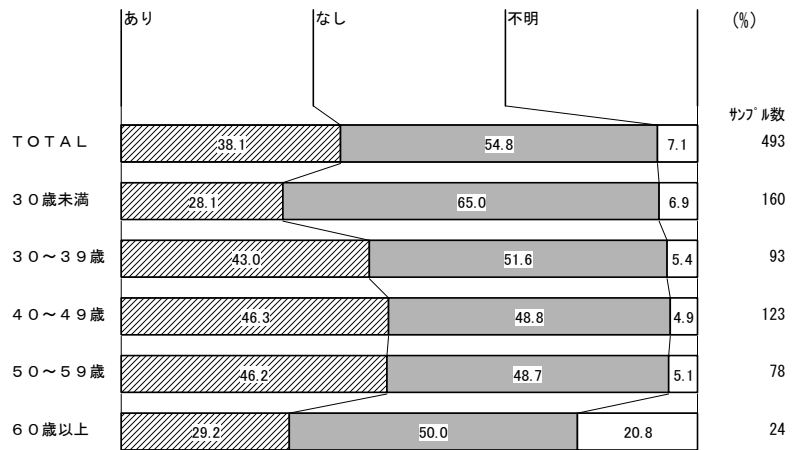
子育てについての相談を進めていく上で、現在直面している問題の有無について聞いたところ、「問題がある」が38.1%、「問題はない」が54.8%となっている。

現在子育て相談を進めていく上での問題



年齢別で見ると、全体的に「なし」が「あり」を上回っているが、30～50歳代では、「問題がある」の割合が大きくなっている。

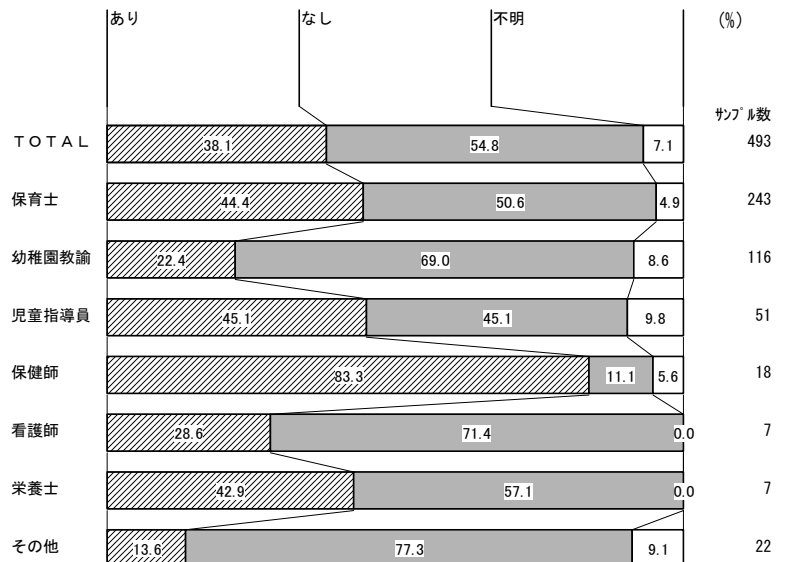
現在子育て相談を進めていく上での問題（年齢別）



(注) 表側の「不明」は除く。

職種別で見ると、「問題がある」と回答している職種は「保健師」が最も割合が大きく、続いて「児童指導員」「保育士」となっている。

現在子育て相談を進めていく上での問題（職種別）



(注) 表側の不明は除く。

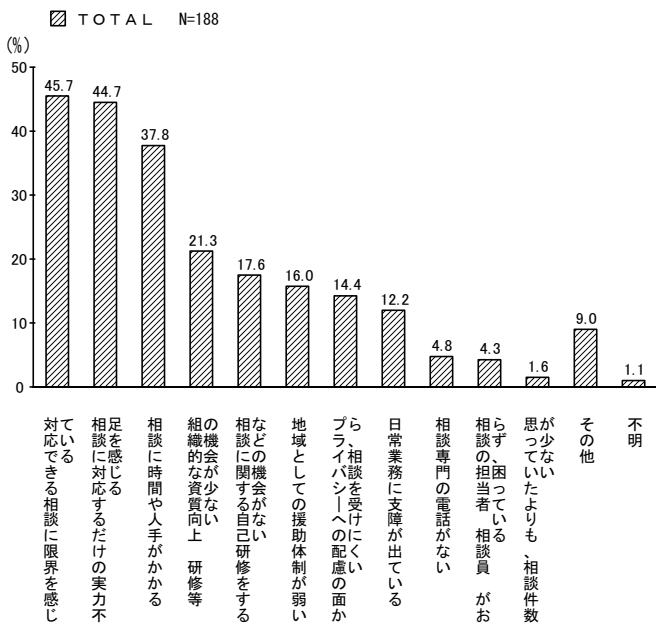
問10(1) 問10で「1 問題がある」と答えた方へ、それはどのような問題ですか。(3つ)

子育てについての相談で問題があると回答した従事者にその内容を聞いたところ、「対応できる相談に限界を感じている」が45.7%で最も多く、続いて「相談に対応するだけの実力不足を感じる」が44.7%となっている。

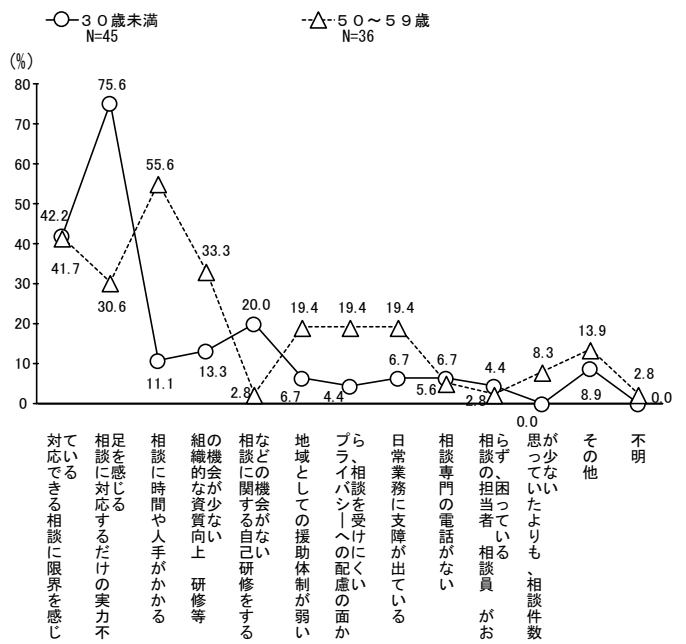
年齢比較を行うと、30歳未満では「相談に対応するだけの実力不足を感じる」が最も多く、50～59歳では「相談に時間や人手がかかる」が最も多くなっている。

職種比較を行うと、いずれも「対応できる相談に限界を感じている」や「相談に対応するだけの実力不足を感じる」が多く、幼稚園教諭では「相談に対応するだけの実力不足を感じる」が特に多くなっている。

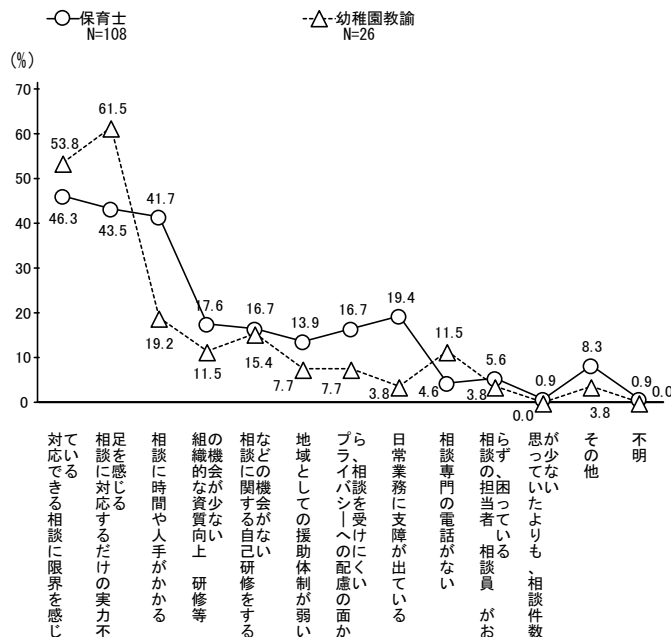
現在子育て相談を進めていく上での問題内容



現在子育て相談を進めていく上での問題内容 (年齢比較)



現在子育て相談を進めていく上での問題内容 (職種比較)

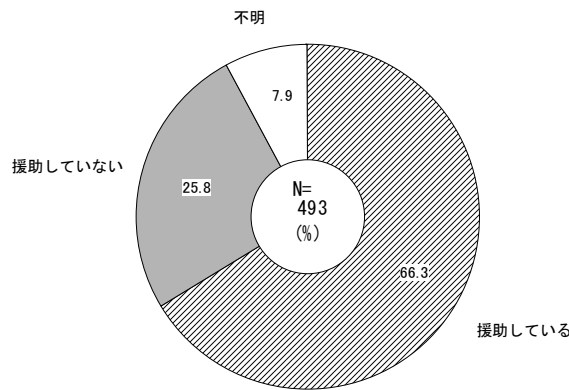


問 1 1 あなたは、子育てについての相談を受けた場合、その後の援助をしていますか。

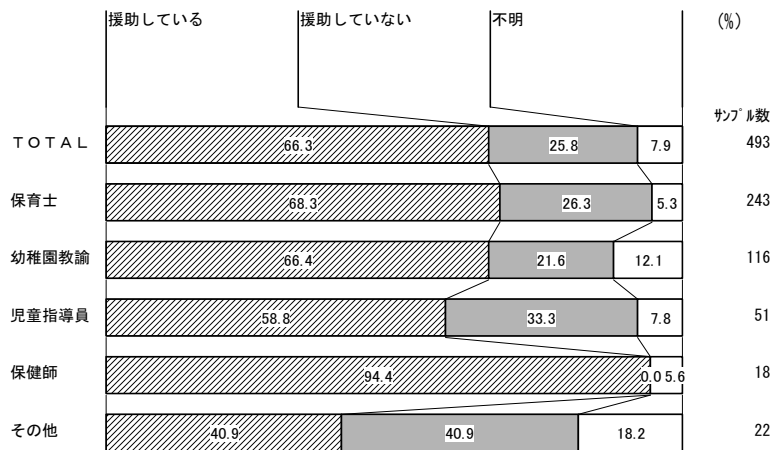
子育て相談を受けた後の援助の有無について聞いたところ、「援助している」が 66.3%、「特に援助していない」が 25.8%となっている。

職種別に見てみると、いずれの職種でも「援助している」が多く、特に「保健師」は9割を超えて対応している。

子育て相談を受けた後の援助



子育て相談を受けた後の援助（職種別）



(注) サンプル数が少ないため表側から「看護師」、「栄養士」は除く。また「不明」も除く。

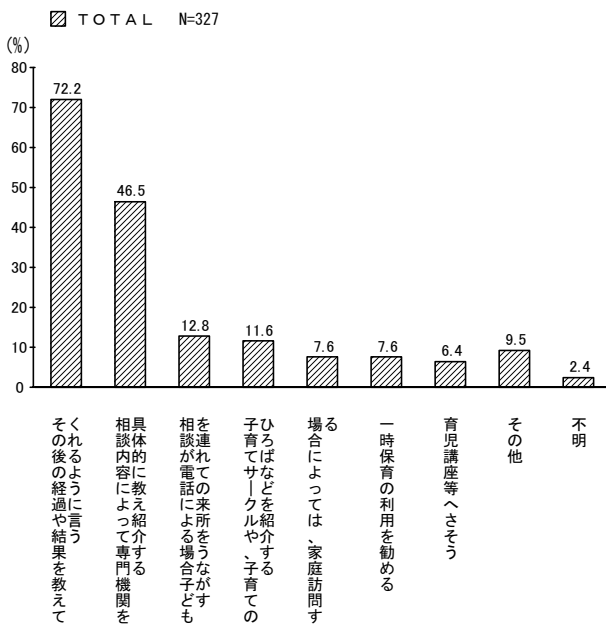
問11(1) 問11で「1 援助している」と答えた方へ、それはどのような援助ですか。(3つ)

子育て相談を受けた後、「援助している」と回答した施設従事者に、援助の内容を聞いたところ、「その後の経過や結果を教えてくださいのように言う」が72.2%で最も多く、続いて「相談内容によって専門機関を紹介する」が46.5%となっている。

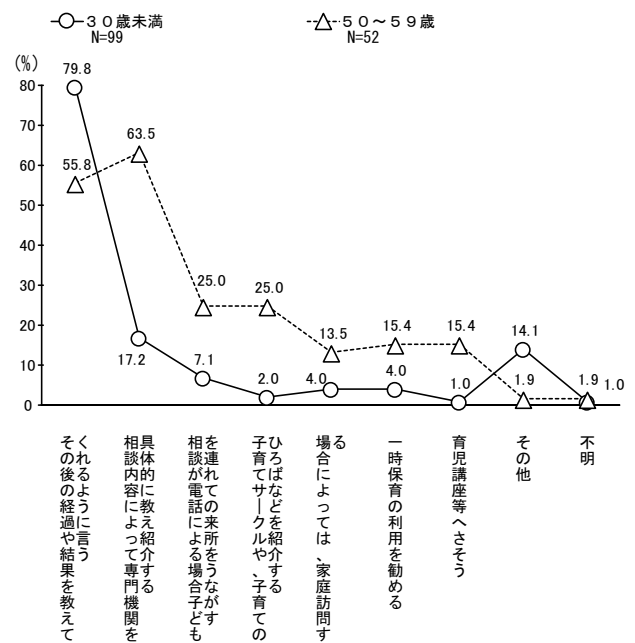
年齢比較を行うと、30歳未満では「その後の経過や結果を教えてくださいのように言う」が最も多く、50～59歳では「相談内容によって専門機関を紹介する」が最も多くなっている。

職種比較を行うと、いずれも「その後の経過や結果を教えてくださいのように言う」や「相談内容によって専門機関を紹介する」が多く、特に保育士は「相談内容によって専門機関を紹介する」が幼稚園教諭と比較すると多くなっている。

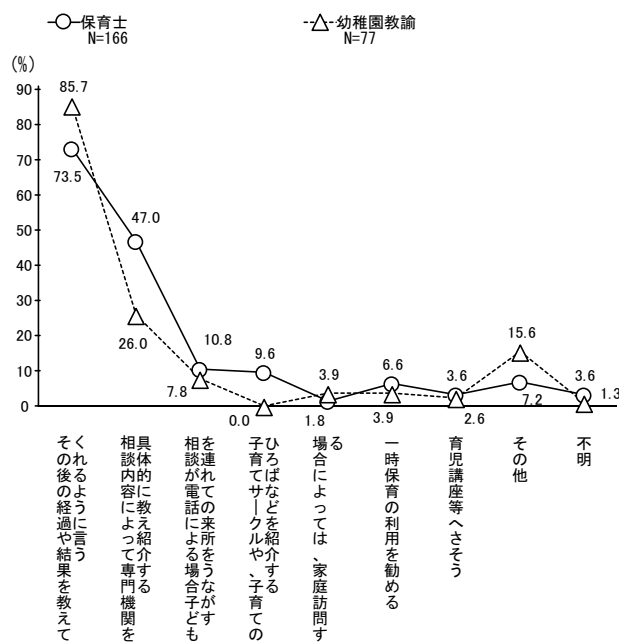
子育て相談を受けた後の援助内容



子育て相談を受けた後の援助内容（年齢比較）



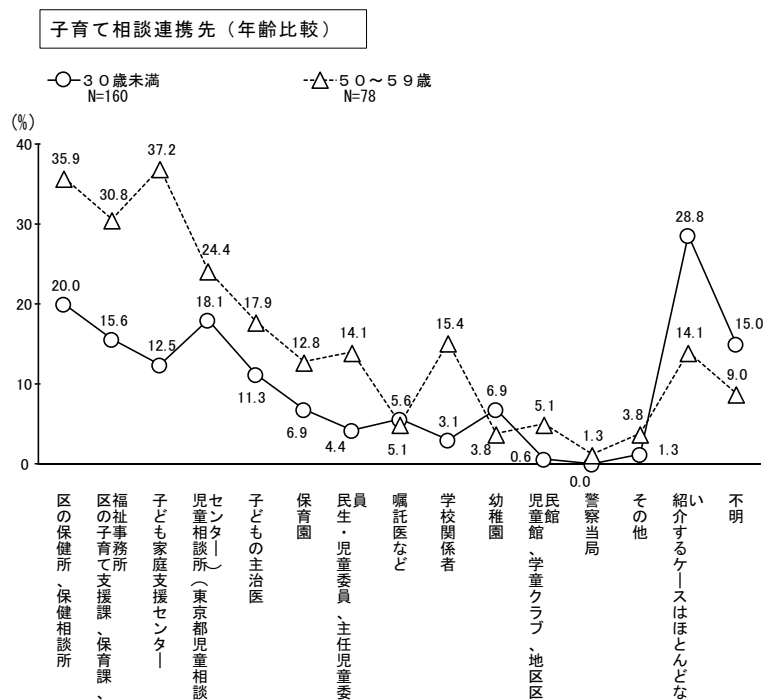
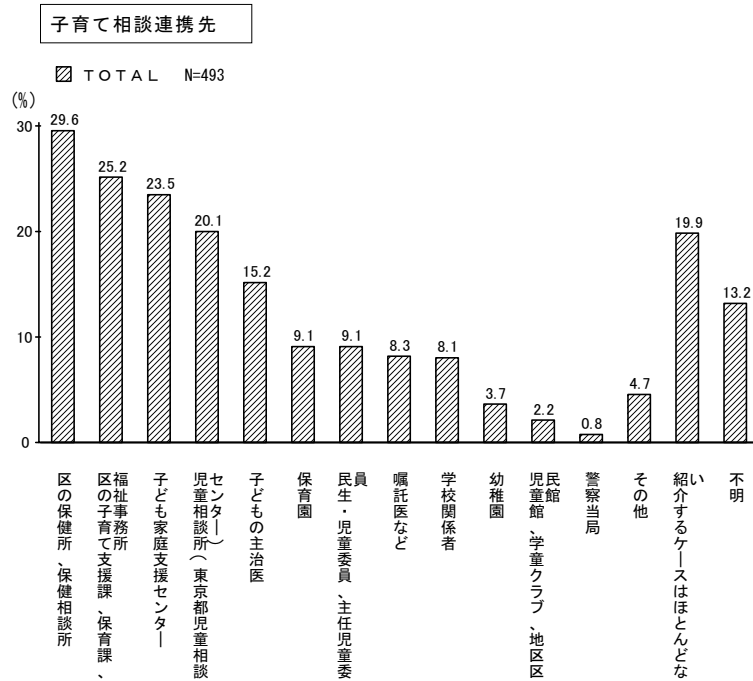
子育て相談を受けた後の援助内容（職種比較）



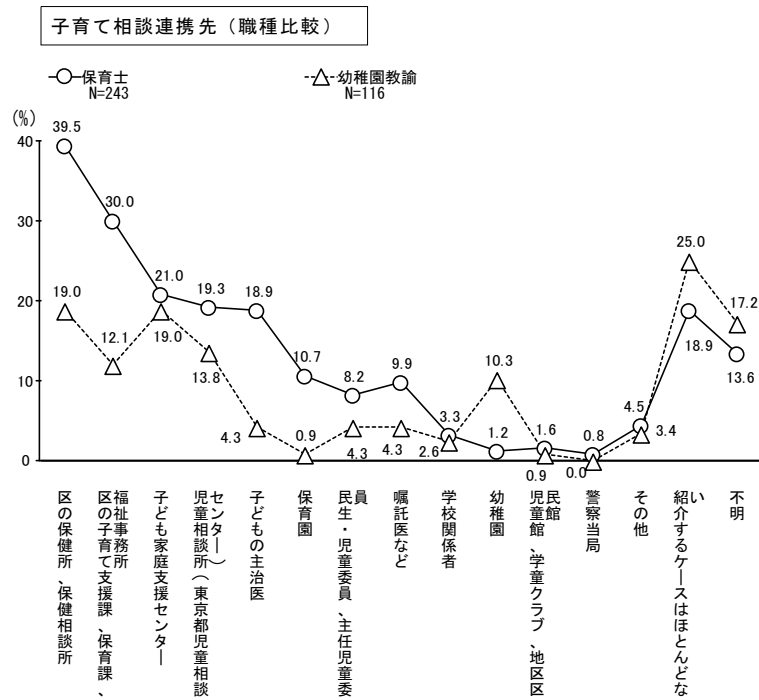
問 1 2 子育てについての相談で、あなたの組織だけで対応できない場合は、次のうちどの機関に紹介するケースが多いですか。（複数回答）

対応できない子育て相談を紹介する機関について聞いたところ、「区の保健所、保健相談所」が 29.6% で最も多く、続いて「区の子育て支援課、保育課、福祉事務所」が 25.2%、「子ども家庭支援センター」が 23.5%となっている。

年齢比較を行うと、全体的に 50～59 歳では紹介する機関の種類が多く、「子ども家庭支援センター」や「区の保健所、保健相談所」をよく紹介している。



職種比較を行うと、保育士は「区の保健所、保健相談所」や「区の子育て支援課、保育課、福祉事務所」、幼稚園教諭は「区の保健所、保健相談所」「子ども家庭支援センター」が多いが、「紹介するケースはほとんどない」が最も多くなっている。



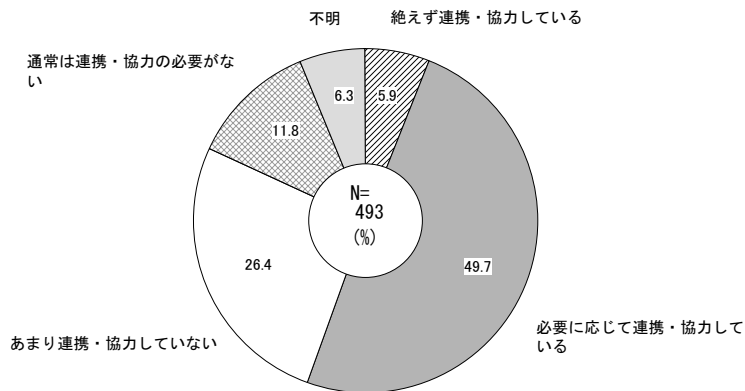
(3) 子育て支援に関する提携・協力、虐待の状況について

問13 あなたは子育て支援活動を行うに当たって、他団体とどの程度、連携・協力を行っていますか。

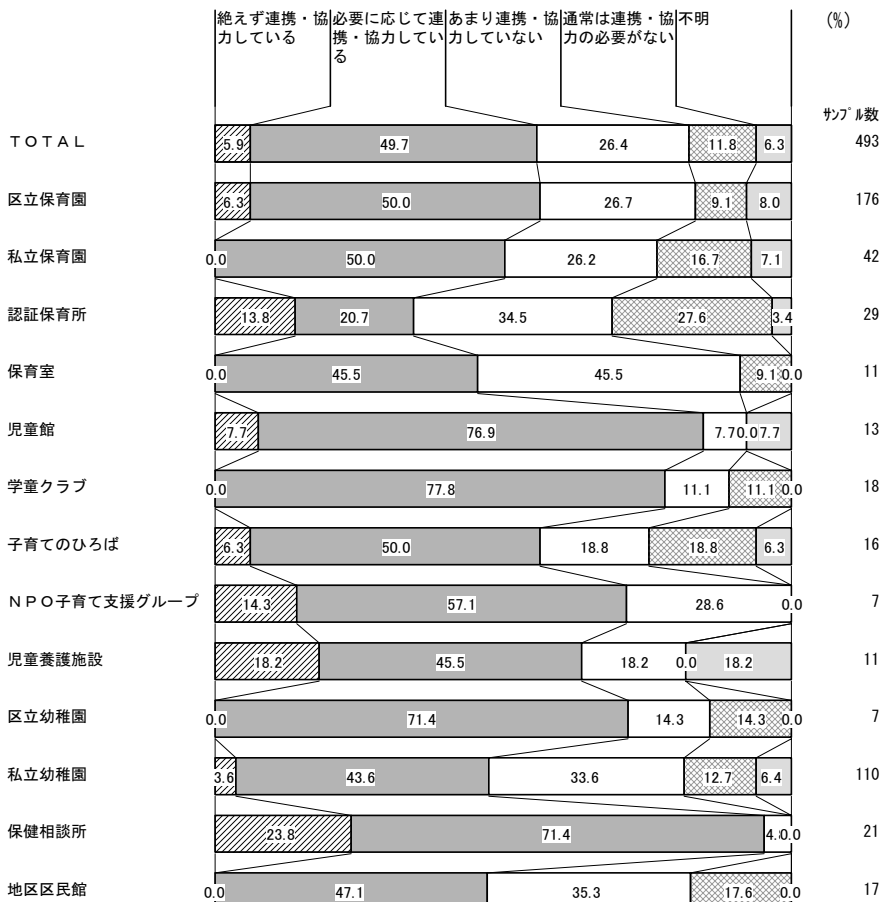
子育て支援活動における他団体との連携状況について聞いたところ、「必要に応じて連携・協力している」が49.7%、「あまり連携・協力していない」が26.4%となっている。

施設別に見てみると、「保健相談所」や「児童館」などでは他の施設との連携・協力が顕著となっている。

子育て支援活動での他団体との連携・協力度合



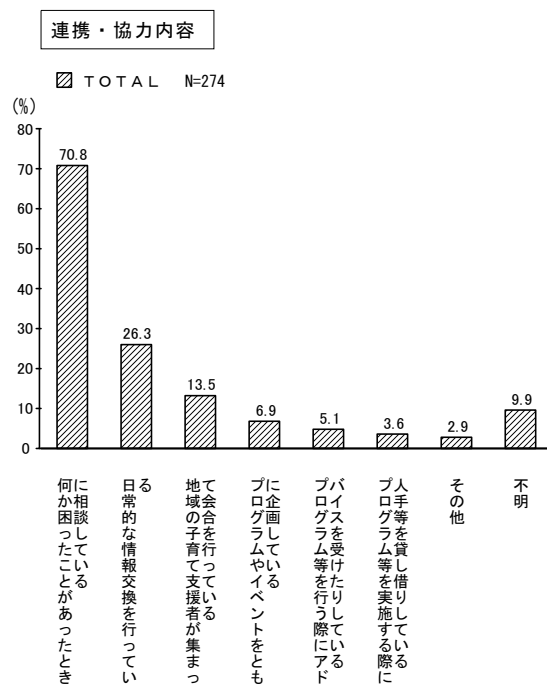
子育て支援活動での他団体との連携・協力度合い (施設別)



(注) サンプル数が少ないため表側から「駅前グループ保育室」、「厚生文化会館」は除く。また「不明」も除く。

問13 (1) 問13で「1 絶えず連携・協力している」「2 必要に応じて連携・協力している」と答えた方へ、連携・協力の内容として多いものをお知らせください。(複数回答)

他団体と連携・協力していると回答した施設従事者に内容を聞いたところ、「何か困ったことがあったときに相談している」が70.8%で最も多く、続いて「日常的な情報交換を行っている」が26.3%、「地域の子育て支援者が集まって会合を行っている」が13.5%となっている。

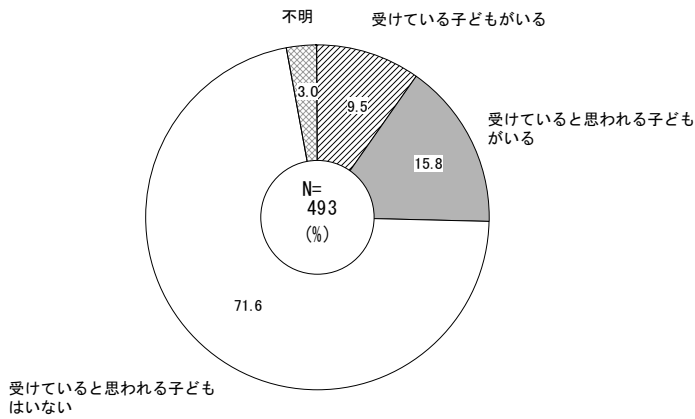


問 1 4 あなたが関わっている子どもの中に、保護者から虐待を受けている子どもがいますか。

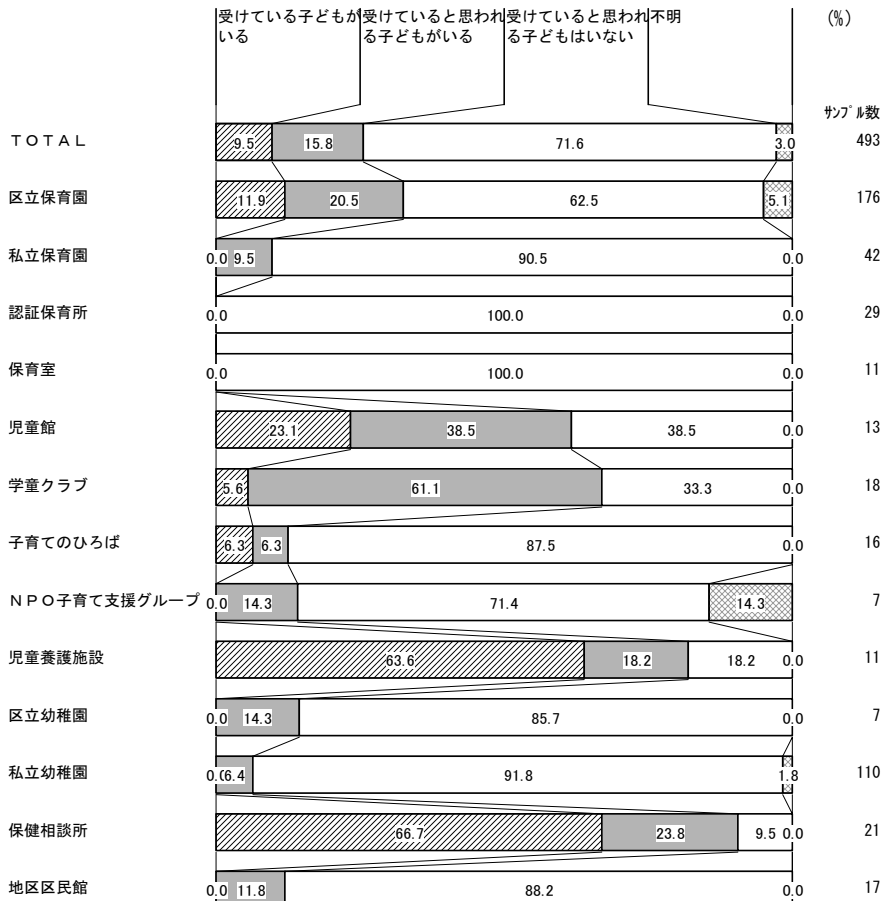
それぞれの子育て関係施設で関わっている子どもが保護者から虐待を受けているかについて聞いたところ、「受けていると思われる子どもはいない」が 71.6%、「受けていると思われる子どもがいる」が 15.8%、そして「受けている子どもがいる」は 9.5%となっている。

施設別に見てみると、受けている子どもは「児童養護施設」や「保健相談所」などで多くなっており、「区立保育園」や「児童館」の一部でも虐待を受けている子どもがいると回答している。

保護者から虐待を受けている子ども



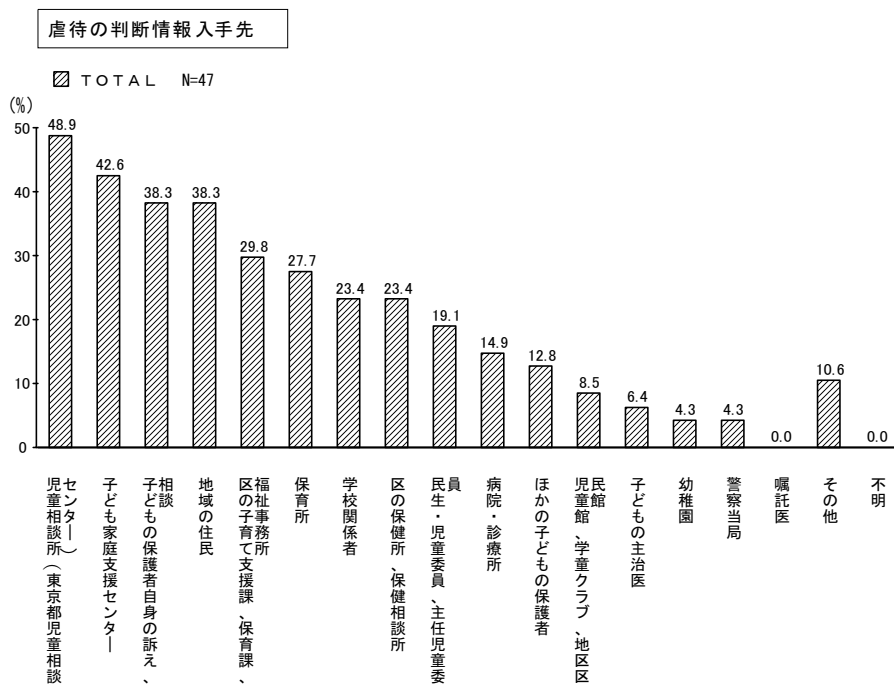
保護者から虐待を受けている子ども（施設別）



(注) サンプル数が少ないため表側から「駅前グループ保育室」「厚生文化会館」は除く。また「不明」も除く。

問14(1) 問14で「1 受けている子どもがいる」と答えた方へ、虐待の判断は主にどのような情報に基づいてなされましたか。(複数回答)

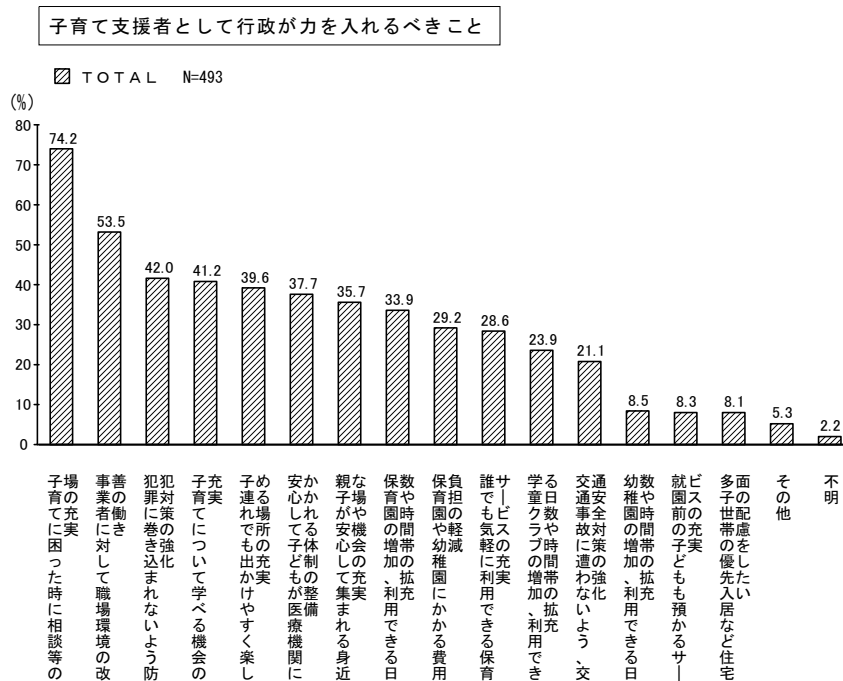
『虐待を受けている子どもがいる』と回答した施設従事者に、虐待を判断する際の情報について聞いたところ、「児童相談所」が48.9%で最も多く、続いて「子ども家庭支援センター」が42.6%、「子どもの保護者自身の訴え、相談」が38.3%となっている。



(4) 行政サービスの重点について

問15 親と子が健やかに育ち合うようにするために、あなたは「子育て支援者」として、行政はどこに力を入れていくといいと思いますか。(複数回答)

親と子が健やかに育ち合うようにするために、行政が力を入れるべき子育て支援の内容について聞いたところ、「子育てに困った時に相談等の場の充実」が74.2%で最も多く、続いて「事業者に対して職場環境の改善の働き」が53.5%、「犯罪に巻き込まれないよう防犯対策を強化」が42.0%となっている。



問 1 6 あなたは、あなたの職場で子どもを預かる際に、その身体の安全を確保し、危険な目に遭わないよう、どのようなことを心がけたり実行したりしていますか。(複数回答)

子どもの安全のために実施していることについて聞いたところ、「玄関・門扉を勤務時間中閉鎖している」が 73.4%で最も多く、続いて「日ごろから防犯について話し合いをしている」が 61.9%、「子どもに不審者などへの対応の仕方をはなしている」が 59.8%となっている。

